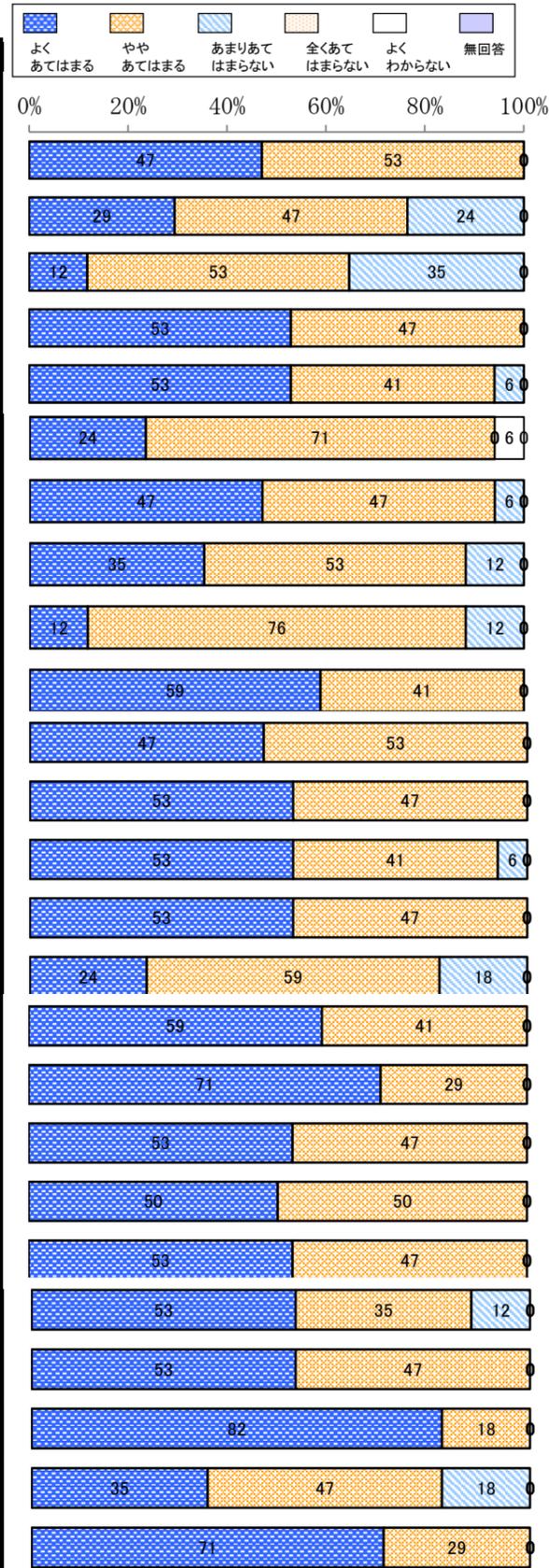


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	8	14	5	1	1	72
	2	児童・生徒の様子	60	27	10	2	2	0
	3	基本的な生活習慣	45	37	13	3	2	0
	4	児童・生徒理解	33	37	19	5	5	0
	5	健康・安全・安心	48	32	13	3	4	0
学力向上の取組	6	分かる授業	47	31	14	4	4	0
	7	個に応じた指導	53	29	10	3	5	0
	8	学習習慣	63	17	11	5	4	0
	9	情報教育	48	25	15	4	7	0
	10	学校図書館の活用	56	30	7	3	3	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	58	33	5	2	2	0
	12	道徳教育	39	35	16	5	5	0
	13	教育相談	39	22	18	11	10	0
	14	人間関係づくり	69	21	6	2	1	0
	15	自治的な活動	59	28	7	3	4	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	42	19	10	6	23	0
	17	相談への対応	39	31	13	5	11	0
	18	学校への参加	50	25	13	5	6	0
	19	地域との連携	41	29	13	9	7	0
	20	意見の反映	43	27	10	5	16	0
各学校の特色ある教育	21	体力向上	42	21	12	13	12	0
	22	体力向上	59	26	7	2	6	0
	23	国際理解教育	64	21	7	3	5	0
	24	学力の定着	59	21	10	4	6	0
	25	読書活動	71	18	6	2	4	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

- ・教育目標を学習活動を通して具現化し示していること。学校便りに教育目標について掲載し周知に努めた。
- ・大部分の児童が達成感を感じている。少数のあてはまらないと答えた児童への注目と寄り添いを行っていく必要がある。
- ・教職員の基本的な生活習慣の定着意識が昨年度より伸びている。今後も学校と家庭が連携し推進していく。
- ・昨年度とほぼ同じ数値・傾向である。「よくわからない」という回答の減少は保護者との連携やSC等の活用の成果と考える。
- ・保護者と児童が共に参加する防災訓練の定着により、成果として回答と頂いているさらに地域と連携していく。
- ・保護者の「ややあてはまる」が、「よくあてはまる」に移行するよう授業力向上に努める。学習の様子を積極的に示していく。
- ・保護者のややあてはまるの回答が多い。習熟度別学習の学習内容や方法を具体的に示し、取組内容の理解を促進していく。
- ・「あらかわ寺子屋」実施等による基礎学力の定着が保護者に肯定的に理解されつつある。家庭との連携強化が課題である。
- ・ICT教育について、日常的な活用等により保護者に認識されつつある。効果や課題等を共有し日常的な有効活用が課題である。
- ・校内研究として取り組み、児童・保護者・教職員共に概ねよい結果が出ている。図書ボランティアによる活動の成果も大きい。
- ・道徳教育や法教育の充実等により、児童・教職員の意識と実感が高まった。保護者への周知と協力体制の構築が課題である。
- ・「道徳授業地区公開講座」の充実により理解が深まった。「特別の教科道徳」実施に向けて家庭との連携を図っていく。
- ・昨年度までに比べSCを活用した児童・保護者が増えた。総数は変わらないが教育相談が抵抗なく広く浸透している。
- ・児童・保護者ともに実感が高く、理解も得ることができた。運動会や音楽会などに参加・参観いただいた成果である。
- ・縦割り班活動や仲良し祭りなど自治的活動の充実により、特別活動の活発化を図ることができた。
- ・学校便りやホームページ等の充実を教員は実感しているが、保護者には十分伝わっておらず、今後工夫改善していく。
- ・三者とも概ね良好な結果が得られている。引き続き「報告・連絡・相談」体制を整え外部の声を真摯に受け止め対応していく。
- ・授業公開日の保護者参加の行事の設定は、参観人数の増加と児童の健全育成において相乗効果を生んでいることが分かる。
- ・教職員の意識が年々高まっている。地域行事や見守りなどの場面で児童が地域に育てられていることを実感した成果である。
- ・保護者の「よくわからない」という回答が依然として多い。反映した意見を全体に周知するなどオープンな姿勢を示していく。
- ・オリ・パラ教育の推進により、三者共に成果のある実践とする認識が昨年度より増えている。今後も工夫実践していく。
- ・計画的に実践できた。児童の体力の向上を数値の成果として示せるよう工夫改善していく。
- ・英語教育推進リーダーの活用により計画的に実施することができた。他教科や領域と関連させる取組が課題である。
- ・活用の程度に児童による差が見られる。PTA役員と連携するなどして保護者と学校が一体となるシステムを作る必要がある。
- ・研究指定校としての本校のテーマであり三者共に特徴として捉えている。各種コンクール結果にも成果が表れた。

